

## 診療ガイドラインの発刊にあたって

本学会の使命は、その会則に記されているとおり、健康科学の向上を図り、国民の健康福祉の向上に貢献するものとして、歯科臨床を通して実践していくことにある。

さて、臨床の実践となると、的確な診断と治療が求められてくる。それに伴って、EBMに基づいた補綴臨床にかかわる診療の基本的な指針の必要性が指摘されてくるようになってきた。それを受けて、2001年春に本学会の中に新たなガイドライン作成委員会が組織され、補綴臨床にまず求められている領域の診療ガイドラインを作成する使命を負わされた。

その対象となった歯科補綴治療領域は、「咬合異常」と「顎機能障害」そして「咀嚼障害（評価法、咀嚼能力検査法）」である。

本書は、対象となった歯科補綴治療領域に関して、これまでに送り出された基礎および臨床に関する科学的研究から得られた知識と、臨床実績に基づく知識を整理して、

- ・「咬合異常の診療ガイドライン」
- ・「顎機能障害の診療ガイドライン」
- ・「咀嚼障害評価法のガイドライン—主として咀嚼能力検査法—」

を作成して、ここに出版する機会が与えられた。

本診療ガイドライン編集の基本方針としては、歯科補綴学が扱っている上記の歯科補綴治療領域に対して、病名、病態、原因、検査、診断、治療法などの基礎的事項を取りまとめることとした。

また、臨床に応用することができるような内容を目指し、あまりに詳細、専門的内容は除くこととして、臨床的に非現実的な内容になることを避けた。しかし、evidence basedであることは意図としたが、学術の進歩に応じて検討、追補することを前提とすることとして、引用文献は基本的なものに限ることとした。

本診療ガイドラインが補綴臨床の向上に幾ばくかの貢献ができれば幸いである。

2002年8月

日本補綴歯科学会  
ガイドライン作成委員会

委員長	河野正司（新潟大学大学院摂食機能再建学）
委員	志賀 博（日本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座）
	中野雅徳（徳島大学歯学部歯科補綴学第2講座）
	古屋良一（昭和大学歯学部冠橋義歯学講座）
	真柳昭紘（東京医科歯科大学大学院摂食機能保存学）
	皆木省吾（岡山大学大学院咬合・口腔機能再建学）
幹事	小林 博（新潟大学大学院摂食機能再建学）